



公益社団法人
滋賀県理学療法士会
ニュース

No. 223(2023-2)

<http://www.shiga-pt.or.jp>

2023.8.1

発行者：(公社) 滋賀県理学療法士会 平岩康之
〒527-0145
滋賀県東近江市北坂町 967
びわこリハビリテーション専門職大学内
電話番号 / FAX 番号：0749-46-0001

編集者：島田 吉建 (甲西リハビリ病院)
山添 徹 (公立甲賀病院)
山本 裕介 (公立甲賀病院)

印刷所：(有) 東呉竹堂 (ひがし印刷)

第38回 滋賀県理学療法学会を終えて

友仁山崎病院 リハビリテーション科
服部 智哉

第38回滋賀県理学療法学会が7月2日ひこね市文化プラザにて開催されました。

開催にあたり運営役員スタッフの皆様を始め一般演題発表や講演いただいた先生方、座長、シンポジスト、会場に足をお運び頂いた参加者の皆様に深くお礼申し上げます。

5月に新型コロナウイルスが5類移行になったものの学会前には感染者が増加傾向となり心配しましたが、当日は天候にも恵まれ士会員や学生、一般市民等合わせた計235名と予想を上回る多くの方々にご参加いただき運営役員一同感謝しております。

一般演題発表者に加え尾下佳史先生や荒谷幸次先生、シンポジストの池谷雅江先生と岡恭正先生に講演や御意見を頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

尾下先生には成長期に多い腰椎分離症や腰椎すべり症について図も交えた詳しい説明やそれに対する治療や対処方法等、一般市民の方にも分かり易くお話しいただきました。

荒谷先生には理学療法士の資格を持ったパラスポーツトレーナーとしてパラリンピック等での支援経験やパラスポーツの現状、理学療法士としてのどのような支援が出来るのか等、画像や動画を組み入れながら丁寧に講演いただきました。

その後荒谷先生を含む3人シンポジストの先生にはスポーツ支援を始めたきっかけやトレーナーとしての活動内容、課題などについてご意見頂きました。特に池谷先生や岡先生は殆どの参加者の皆さんと同じような立場で本業の傍らの時間を使いトレーナー支援をされているということで、興味を持つきっかけとなった参加者もおられたのではないのでしょうか。



この学会に参加された皆様には学会タイトルにもあります『理学療法士の役割と可能性』について少しでも考えるきっかけになれば嬉しく思います。

次年度以降も充実した学会集会が続き理学療法士が社会から多くの場面で必要とされ、また高いレベルで提供でき続けられることを願っております。



「第1回びわ湖マラソン(3月12日) 自転車 AED 隊・待機 AED 隊に参加してきました」 ＜公益事業報告＞

びわ湖毎日マラソンは昨年で終了し、皇子山陸上競技場をスタート、烏丸半島をゴールとする市民マラソンとしてリニューアルされ開催されました。ランナー募集開始から1か月もたらず定員に達し、約3000名のボランティアが参加し、約6300名のランナーがスタートラインに立った県内最大級のスポーツイベントとなりました。当士会では、会員から有志を募り、自転車 AED 隊、待機 AED 隊として11名が士会ロゴ入りマスクとネックウォーマーを着けて救護活動に参加しました。消防士や看護学生と救護チームを組み活動しましたが、季節外れの高温となり、ランナーにとってはコンディショニングが難しく、脱水症状によりレース途中で断念する方も多々おられました。救急車搬送が必要な要救護者の対応をした士会員もあり、脱水症状や転倒受傷対応等、当士会員は大会事務局から大活躍とお褒めの言葉を頂戴しました。また、参加士会員から“気が付いた点”を集め、大会事務局へレポートを提出することになり、再度、謝意をいただきました。この2月にスポーツ支援部(旧国体支援部)が開催したEAP(緊急時対応計画)研修がおおいに参考になりましたが、我々の医学的知識やアスリートへのコンディショニング技術が役に立つことを実感する声も寄せられました。消防士さんの迅速な救急対応、献身的な看護学生さん、大学生や走路員、スポーツ現場ならではの他職種とのチーム活動は良い経験となりました。



◇ 少し早めの春を感じる晴天の下、メディカルスタッフの経験を頂きました。私の横を走る「ゼハゼハ」という息づかいを感じるに、BLS や AED を実際に使用するかもしれないリアルな緊張感が増し、今更ながら運動生理を頭の中で復習しつつ AED を背に自転車を進める私。今回の経験は、時々レースに参戦する選手として、理学療法士として、そしてサポーターとして、大きく視野を広げてくれました。皆さんも機会がありましたら是非、経験して下さい。

自転車 AED 一番隊 <濱田 康夫>

◇ ボランティアスタッフとして職場とは違う立場で役割を果たせたことは、理学療法士として爽やかな達成感を感じました。現場なのでスムーズにいかない側面もありましたが、初めて出会う人々とともに連携スピードを意識した活動ができたのは、良い経験になりました。レース後半のランナーのひたむきな姿を応援しながら、運営側としてレースに参加するのも楽しいと感じました。

<宗 邦宏>

◇ 今回、びわ湖マラソンの自転車 AED 隊として、スタートから 20km 程度まで並走させていただきました。このようなボランティアに参加するのは初めてだったのですが、とても楽しくやりがいがあり、今後も参加してみたいと思いました。びわ湖マラソンの記念すべき第一回大会に携わることができたこと、とても嬉しく思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

<澤田 明莉>

◇ 今回は、自転車 AED 隊の前半チームで参加しました。気温も思ったよりも上がらず、まだランナーの比較的元気なエリアだったので大事には至りませんでした。準備の移動や活動時「AED 隊頑張って」など応援の方からお声がけいただき嬉しく感じました。定点移動後、苦しい中頑張るランナーさんがスタッフの励ましでも笑顔になられるのが印象的でした。準備から当日まで、貴重な経験ができて良かったです。皆さん、次年度は是非一緒に参加しましょう！

<森 智子>

◇ 初めてのボランティア参加で、ランナーの多さに驚きました。年齢層も幅広く、天候も良かったため足が攣る方が多くみられました。担当のブロックは後半ではありましたが、歩けるランナーや休憩して再度走る方が多かった印象です。対応が必要な時にはかなり緊張しましたが、消防士さんが素早く指示を下されました。普段訪問の現場に従事しており、一人で訪問することが主なので、緊急時の対応は改めて色々な場合を想定しておくことが必要だと感じました。

<宇野 ちひろ>

◇ 初めてマラソン大会のサポートに参加して、医療チームをはじめとするサポート陣の存在はランナーにとってのセーフティーネットになっていると感じました。市民マラソンでは、コンディショニングもペース配分も不十分であることが多く、気候や路面状況などの環境因子に振り回される事もあり戸惑いも多いと思いました。しかしサポート陣のチームアプローチによって大きなトラブルもなく最後まで運営できたこと、そこに関われた事を誇りに思います。

<小原 典和>

◇ びわ湖マラソンに救護班 (AED 隊) として、消防士、看護学生とともに参加しました。幸い私が担当するコースでは AED を発動せず無事終わりました。気温も高く、筋痙攣が起き、ストレッチをしながら走っている方が多かったです。ランナーの中でも、後半や終了後の体調不良者が多く、救護所等での我々が介入できる PT ブースがあってもいいのではと思いました。PT としてマラソン大会に参加し、大変良い経験となりました。

<権藤 康仁>

◇ 「知ってること・できることは違う」今回フルマラソン大会のサポートとして、救急救命士さんと共に自転車 AED 隊を編成しての救護活動でした。気温が高く熱中症やそれに伴う熱痙攣とみられる方が多くみられ中等症・重症ケースにも遭遇しました。目の前で倒れている要救護者を前に、救急救命士が落ち着いて対応し適切な指示によりチームが動き円滑に救護活動が対応できました。「知ってること・できること」の違いを強く感じ、今後の活動に繋がる貴重な経験となりました。

<富士野 秀峰>

◇ こういったボランティアは初めてでしたので不安もありましたが、救命処置について改めて学ぶ機会ができたことです。今回自ら気づいたことや他のボランティアの方々の活動から学んだことを、次回も参加できれば活かしたいと思います。また、近くで選手を応援し、幅広い年齢の方々が、各々自分のペースで一生懸命に走っている姿に活力をもらいました。元気な時は直接関わることはありませんが、救護員の存在が選手たちの大きな心の支えになることを感じました。

<佐伯 さつき>

◇ 待機 AED⑥は 26km 地点と中盤だった事もあり、ランナーは膝が痛そうに歩いている人や立ち止まって、また走り出せる程度で比較的落ち着いていました。ランナーからは「(コールド?) スプレーありますか?」と聞かれる事が 5 回ぐらいありました。学生ボランティアさん 2 名は看護学生さんでとても協力的でした。

<中川 竜徳>

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025 へのスポーツ支援部活動について

スポーツ支援部 部長
おした整形外科医院 土山 裕之

2024 年から国民体育大会は「国民スポーツ大会」へ名称変更され、2025 年には滋賀県で開催されます。滋賀県での国スポ開催は昭和 56 年の第 36 回国民体育大会（びわこ国体）以来の 44 年ぶりとなります。

滋賀県理学療法士会としても、2016 年より国体支援部（現：スポーツ支援部）を発足し、国スポに向けて選手へのサポートができる人材育成を行うこと、また競技力向上や障害予防のための選手サポートを目的に活動しています。

昨年度まではコロナ禍によりオンライン研修会を中心に活動をしていました。今年度から対面研修会を再開し、第 1 回研修会を 5 月 14 日（日）に大津市勤労福祉会館で実施しました。15 名の滋賀県理学療法士会会員の方に参加して頂きました。基礎的なスポーツ外傷概論、トレーニング概論に関してはオンデマンド配信で視聴して頂き、今回の対面研修ではテーピング、応急処置、ウォーミングアップに関して実技を中心に実施しました。対面にて実技研修ができたことで、受講者の反応を見ながら研修を進められ、その場でのフィードバックや言葉だけでは伝わりにくい細かな指導ができ、有意義な研修にすることができました。また、研修中にスポーツ現場への参加方法や今後どのような勉強が必要かなど、スポーツ現場への参加に意欲的な質問もたくさんありました。オンライン研修会もたくさんのメリットがありますが、対面研修にて反復的な実技練習をする事は個々の知識の向上だけでなく、技術の向上にも繋がると考えます。第 2 回研修会を 9 月 10 日（日）にびわこリハビリテーション専門職大学で開催予定をしています。研修会参加者を対象にスポーツ現場での実地研修を適宜開催しています。実地研修とはオンデマンド配信で学んで頂いた知識や対面研修で獲得した技術を実際のスポーツ現場でどのように活かすかを確認して頂くために、スポーツ支援部員と一緒に現場で実習をして頂く内容となっています。

スポーツ現場で関わった事が無く、現場に行く事が不安な方は多くおられると思いますが、まず対面研修に参加して頂き、一緒に学んでいけたらと思います。

皆様と一緒にスポーツ現場での活動が出来る事を楽しみにしております。

スポーツ支援部の活動に関する問い合わせ先
おした整形外科医院 土山 裕之
e-mail : oshitariha@io.ocn.ne.jp



障がい者スポーツ支援部だより

「全国障害者スポーツ大会栃木県大会(2022年10月) ボッチャ競技滋賀県代表 古閑 正孝選手」

今回は、全国障害者スポーツ大会で初めてボッチャ競技が実施された栃木県大会で滋賀県代表（立位の部）の第1号となった古閑正孝選手に、各大会にいつもご同伴されている奥様（美恵子様）との共同作業でご寄稿いただきました。古閑選手は脳梗塞を発症し県内の急性期病院や回復期病棟にてリハビリテーションを受け、その後、アスリートとして第一線でご活躍されています。



Q1 脳梗塞を発症されたのは、 おいくつですか？入院期間は？

A: 2003年4月28日、53歳で発症しました。最初は済生会病院で2か月半、リハビリというにはあまりにも酷な日々でした。起きることはもちろん、寝返りも出来ずだるまさん状態でした。でも車いすから少しずつ歩けるようになりました。野洲病院で2か月、言葉の方も少しずつ話せるようになり、おもに足を鍛えるための階段の昇り降りの運動をいたしました。

Q2 退院後いつから障がい者スポーツ、ボッチャを始めようと思いましたか？ どのようなきっかけや動機がありましたか？

A: 退院後は、まず滋賀県立障害者福祉センターのプールで歩く練習を致しました。最初は降りの人が歩く波のゆれで転げそうになり歩く事さえできない状態でした。スポーツを最初に始めたのはフライングディスクの座位でした。記録も何年も持っていました。その後、ボッチャに出会い、初めて体験した時、正直あまり魅力は感じませんでしたが、何回かするうちに、奥の深いスポーツだなとどっぷりはまってしまう今に至っています。



Q3 脳梗塞になる前、どのような生活、お仕事・スポーツをされていたか？

A: 脳梗塞になる前は5年間地方競馬場で騎手をしておりまして。それから、栗東のJRAトレーニングセンターへ移り、馬の調教をする調教助手をして働いていました。おかげさまでダービーも取らせて頂きました。スポーツは特にしていませんでした。

Q4 日頃の練習の頻度や時間、場所を教えてください？

A: 毎週、火曜日と土曜日に練習しています。
火曜日 大津市立障害者福祉センター（大津市におの浜 4 丁目）AM11 時～PM3 時まで
土曜日 湖南省水戸体育館（梅影町 4-2）AM9 時 30 分～PM12 時まで

Q5 練習にはどのような工夫をされていますか？

A: 家では廊下で、ほぼ毎日ホームチェックをかねて練習しています。皆さまと練習するときはペア同士で戦っています。やはり一人で練習するよりは皆と練習するほうが勉強になります。

Q6 ボッチャ以外にされているスポーツや活動を教えてください。

A: ここ数年はコロナ禍の中であまりスポーツは出来ませんでしたが、まず 1 番はグランドゴルフ、次に卓球、フライングディスク、ボーリングをしていました。

Q7 ボッチャを通じて、いままで印象になった大会や出来事は何ですか。

A: 全国大会に二度ほど、金沢、大阪に行かせて頂きました。残念ながら四位でしたが、やはり、一番は全国障害者スポーツ大会栃木県大会ですね。良くも悪くも銀メダルを頂いたのですが、すごくうれしく、一番の思い出です。

Q8 ボッチャ競技をされていて、ご自身の生活やおからだ、人間関係などで良かったことは何ですか？

A: 脳梗塞という病気で左半身麻痺の体ですので、激しい運動は出来ません。ボッチャに出会えて本当に良かったと思っています。年齢に関係なく、自分自身が努力して頑張れば結果は自ずとついてきます。まして、昔ながら何らかの障害をかかえて、それなりに一生懸命頑張っておられる姿を見せていただいているだけで自分も励まされました。スポーツを通してお互い励まし励まされ本当に楽しい毎日を過ごしています。



Q9 競技を続けていくうえで、苦勞されていることは何ですか。

A: 病に倒れてからの数年間は生きていくことだけで精一杯の毎日だったので、人には言えないたくさんの辛い事、悲しい事、悔しさが山ほどありました。それなりに乗り越えての今ですので、スポーツが出来ているだけで幸せです。苦勞しているとは思いません。

Q10 障がい者スポーツ関係者、リハビリテーションスタッフに対するコメントがあればお願いします。

A: 病に倒れて二十年 主治医の先生、介護士、理学療法士、作業療法士、リハビリに携わった沢山の皆様には、いくらお礼を言っても言い足りない程の感謝で一杯です。この方たちの力添えがなければ今の自分はないと思っております。ボッチャに関しても沢山のボランティアの方が力を貸してくださるのでスムーズに練習が出来ていると心から感謝しております。本当にありがとうございます。

Q11 同じような片麻痺障害がある方に対するメッセージをお願いします。

A: 主人は片麻痺で運転も出来ます。倒れて初めての車に乗った時は、私事ですが生きた心地がしませんでした。怖くて怖くて、でも死ねばもろとも二人で一緒にいければそれはそれでいいのかなと腹をくくり、二人で練習しました。それが今では、信用の二文字で横でグッスリ寝てしまいます。慣れって恐いですネ。今では住まいの滋賀県から宮崎県に毎年一度、車で帰郷しています。残った大事な身体を駆使して頑張ればきっと人生を楽しめると思います。後を見ず、前に前に自分の力を信じ、頑張っていってほしいと思います。

Q12 奥様からみて、正孝選手が片麻痺になられてから、ボッチャをするようになって変化したことはありますか？

A: 主人は元々元気な頃から運動神経が良い方でしたので、片麻痺になっても頑張る努力は人一倍でした。様々なスポーツを体験してきましたが、主人にはボッチャが一番合っていると思いました。片麻痺で力があまり出ないので、作戦、(スローイング) コントロールで決まるスポーツなので、ボッチャに出会えて本当に幸せでした。できる限り楽しみながら、また大会にでて、優勝を目指して頑張りがいがあると思っています。陰ながら応援したいと思います。

Q13 正孝選手から奥さまへ一言お願いします。

A: 感謝の一言だそうです (笑)

Q14 自由にお言葉ををお願いします。

A: 二十年前、あんなにはつらつとしていた主人が、まさか脳梗塞で倒れるなんて主人にとっても私にとっても、本当に晴天の霹靂でした。救急車で搬送され、あれよあれよと言う間に顔は歪み、言葉はです、口から涎は垂れ、手も足も全く動かず、ショックたるは想像を絶するものでした。脳梗塞の知識も知らぬまま、三日三晩ただただ主人の手と足をさすり祈るばかりでした。外の明るい昼間は気持ちが少しは落ち着くのですが、暗くなる夜は病院の窓から見えるネオンを見ながら、これからどうなるんだろう、どう生きていったらいいのだろうと、悲しみと不安でとめどなく流れる涙をどうする事もできませんでした。しかし、主治医の先生、介護士、理学療法士の先生方に優しく、時には厳しく暖かく見守っていただいたお陰で徐々に回復してまいりました。一生、車椅子かもしれないと言われながらも杖を片手に一生懸命リハビリに励む月日を過ごしてきました。しかし、気持ちの方が中々ついていけない毎日でした。そんな時に友人に紹介されて、まず、フライングディスク、そして、グランドゴルフ、卓球、ボーリング、ボッチャとあらゆるスポーツに携わる事が出来、今に至っています。今が一番幸せな日々を送っています。

2023 年 8 月

障がい者スポーツ用具貸出事業案内

①ボッチャ ②フライングディスク

会員およびその所属先の方々が障がい者スポーツに触れる機会を増やすため、スポーツ用具貸出事業を 2022 年より開始しております。会員が所属する施設団体内での体験やイベント等にご活用ください。

借用される場合、別紙「障がい者スポーツ支援部用具貸出に関する規程」を必ずお読みいただき、「スポーツ用具借用申請書」にて障がい者スポーツ支援部までご提出願います。貸出料は無料です。不明な点、用具の搬送方法については当部まで事前にお問合せください。

滋賀県理学療法士会 HP「その他の情報」に規定及び申請書が掲載されてますのでご参考になしてください。ご不明な点があれば、下記連絡先までお願いいたします。

- 貸出用具 ①ボッチャ用具（ボッチャ赤青ボール、ジャックボール、審判用具） 1 セット
②フライングディスク（公認） 10 枚
③フライングディスク アキュラシーゴール 1 コ

問合せ先

滋賀県理学療法士会 障がい者スポーツ支援部

ptshiga.parasports@gmail.com

担当 石井

柴田 健司副会長 日本理学療法士協会 協会長表彰

この度、滋賀県理学療法士会のご推薦を頂き、日本理学療法士協会 協会長表彰を賜りました。大変光栄に思います。この賞の受賞は歴代士会長や、理事、諸先輩、そして士会員皆さまのおかげであり感謝しております。

現在まで、滋賀県士会理事として合計 18 年務めさせて頂くなど、皆様のご厚意により長く役員をさせて頂いた結果でもありますが、私自身の実感としてましては実態が伴っていない感もあります。今後は少しでも恩返しができるばと考えていますので、引き続き、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



今年も会員の皆さんからの写真を大募集し、写真コンテストを開催いたします。
応募作品のテーマは自由ですので、奮ってご応募ください。

グランプリ
1作品

準グランプリ
1作品

優秀賞
5作品

参加賞あり



滋賀県理学療法士会 厚生部主催

第12回 写真コンテスト

作品テーマ 設定なし

応募作品のテーマは自由ですので、お気軽にご応募ください。
応募作品には、必ず題名をつけていただくことを条件とします。

大募集!!

応募方法

デジカメ・スマートフォンなどで撮影したものを下記までお送りください。

件名を“写真コンテスト”とし、①写真題名、②氏名、③所属、④電話番号を記入してください。

応募先： ptshiga_kouseibu@yahoo.co.jp (ptshiga の後はアンダーバー)

締め切り日 2023年10月9日(祝・月)

第11回グランプリ

第10回グランプリ

審査方法

会員による Web 投票を行い、各賞の表彰を行います。

グランプリ：1作品 準グランプリ：1作品 優秀賞：5作品 参加賞あり

応募に際しての注意事項

- ・応募は1人につき2点までとします。
- ・被写体の肖像権侵害等の責任は負いかねます。
- ・全応募作品の使用権は滋賀県理学療法士会に帰属します。
- ・応募者本人が撮影し、すべての著作権を有しているものに限りします。
- ・公共性にそぐわないもの・不鮮明なもの等は、応募されても無効とします。
- ・応募数が一定数に満たない場合は、コンテストを中止する場合があります。

お問い合わせ先

厚生部 (ptshiga_kouseibu@yahoo.co.jp) までメールでお問い合わせください。

第9回グランプリ



2023年度 滋賀県理学療法士会神経心理学療法研究会

全県型研修会

講 師：深澤宏昭 先生（相模原療育園 理学療法士）

テ ー マ：実践から考える神経発達症の理学療法

日 時：2023 年 9 月 24 日（日） 9：30～12：30（9:00～受付開始）

内 容：本研修は、14 年間、臨床で試行錯誤をした、「実践から考える神経発達症の理学療法」をお話しします。

本研修は、下記の内容を含みます。

- 1) 理学療法士が知っておきたい神経発達症群 / 神経発達障害群：DSM-5、自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如多動症（ADHD）、発達性協調運動症（DCD）、知的能力障害（ID）の基本的な内容の整理
- 2) 神経発達症の理学療法：医療面接、包括的なアセスメント（発達全般、認知発達、特性）、理学療法評価（包括的な運動評価）、介入計画、介入、再評価まで（可能な限りエビデンスに基づき、且つ経験に基づく実践の工夫を含めた内容）
- 3) 神経発達症のこども達と家族に、他職種に、理学療法士として求められること

対 象：理学療法士および関連職種

定 員：80 名

会 場：オンライン開催（Zoom）

研修会費：滋賀県理学療法士会員：無料

他都道府県士会員：2,000 円 非協会員：3,000 円

備 考：当研修会は 90 分 2 コマで登録しております。登録更新ポイントは 3 ポイント、認定 / 専門理学療法士更新点数は 3 点の付与対象となります。研修会開催 1 週間前を目処に、研修会資料と Zoom の URL を送信させていただきます。

お問い合わせ：滋賀県理学療法士会 神経心理学療法研究会

山口卓也（sigasinnkeipt@gmail.com）

申込方法：日本理学療法士協会マイページより申込みください。

協会員外の参加希望者は上記アドレスへ問い合わせ下さい。

定員になり次第閉鎖させていただきます。

各部の部員大募集

各部では士会活動を活性化すべく部員を募集しています
経験年数が少ない会員の方も、経験豊かな方もぜひ部員になって
県民のため士会の運営に参加・参画しましょう
少しでもご興味のある方は、ぜひ一度お声かけ下さい

連絡先 (a) は @ に置き換えてください

事務部：佐々木 絵美	jimukyoku(a)shiga-pt.or.jp
介護報酬部：片岡 大亮	kataoka20090324(a)yahoo.co.jp
広報部：山添 徹	shigaptnews(a)yahoo.co.jp
厚生部：奥田 重人	ptshiga_kouseibu(a)yahoo.co.jp
診療報酬部：磯崎 浩司	isozaki1980omi(a)gmail.com
教育部：中川 竜徳	ptkyouikubu(a)yahoo.co.jp
学術誌部：小原 典和	koto_shiga(a)yahoo.co.jp
生涯学習部：川崎 浩子	h-kawasaki(a)pt-si.aino.ac.jp
地域包括ケア推進部：南 雄也	shiga.chiiki(a)gmail.com
災害対策部：東 貴之	azb31321(a)yahoo.co.jp
公益事業部：岸本 美地彦	shigapt_k_mk2016(a)yahoo.co.jp
職能部：小池 隆二	onemoreship.r.koike(a)gmail.com
スポーツ支援部：土山 裕之	isozaki1980omi(a)gmail.com
障害者スポーツ支援部：石井 隆	ptshiga.parasports(a)gmail.com

研究会

運動器理学療法研究部：石崎 裕也	y_ishizaki(a)k-kyojokai.or.jp
生活環境支援系理学療法研究会：神山 良介	shigaraki.rh(a)gmail.com
内部障害理学療法研修部：池野 尚	naibu.shiga.pt(a)gmail.com
神経理学療法研究会：西澤 一馬	sigasinnkeipt(a)gmail.co
教育管理理学療法研究会：久保 貴弘	shiga.kyouikukanri.pt(a)gmail.com



並河 孝

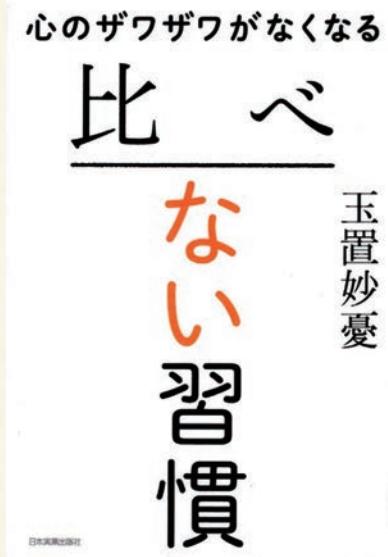
本の名前：『比べない習慣』

著 者：玉置妙憂（僧侶、看護師）

価 格：1,300 円（税別）

出版社：株式会社アスコム

生活の中で人と比べることは、日常的に行っていることである。無意識に自分の子どもとよその子どもを比較して一喜一憂したり、何かと他人が羨ましくなったりする。他人や世間と比べずに自分自身で心を満たすことができれば、人生はもっと生きやすいものになると筆者は提言している。心のザワザワ・モヤモヤは『比べる』ことから生まれていて、自分の軸より他人の軸で比較して振り回されることもある。ネットで「いいね」を押してもらうのに要らぬ努力をするといったように友達の比べる尺度（軸）にまで関わっている。SNS に参加するは良いのですが、他人からの賞賛で自分自身を形づくろうと思わないことが大切である。人と比べることを皆無にすることはできないが、少しでも自分の気持ちを身軽にしていくことは大切である。著者は看護師であり僧侶でもあるので、佛教の言葉で表現してかつ医療者としての経験から述べている。夫の死後、自分で選んだ生き方に対して、覚悟を持ち、その潔さを知り徐々に人と比べるということをしなくなったとのこと。すると周りから比べる人が消えたと述べている。優れているとか劣っているとの基準はどこにあるのかわからないのに、自分で作り出していることも多い。「はあーため息が出ちゃいますねえ！人間は疲れますねえ」と述べている。終わりに『比べない習慣は人生修行の課題』と締めくくっている。是非ご一読して頂きたい本である。



士会ニュース 2023 年度、今後の発行予定ならびにお願い

★発行予定について

2023 年 11 月号 締切日 2023 年 9 月 25 日（簡易版）

2024 年 2 月号 締切日 2023 年 12 月 25 日（カラー版）

記事を掲載希望の方は、お間違えのないよう、広報部までご連絡下さい。

★お願い

- ・記事掲載の文書で日時を記載はする際は、西暦表示で作成していただくよう、宜しくお願い致します。
- ・士会ニュースが今後より良い内容になるよう、ご意見やご質問をいただければ幸いです。

宜しくお願い致します。

問い合わせ先 Mail : shigaptnews@yahoo.co.jp 広報部 山添

事務局頼り

情報の更新をお願いします！

異動や退職等で住居を異動されたにも関わらずマイページの変更を行っていない方がおられます。郵送物が届かない等のトラブルがございます為、**職場・住居を異動された場合は必ずマイページの更新をお願い致します。**

情報の更新で不明な点がある場合は日本理学療法士協会へ問い合わせをお願い致します。

士会からの郵送物の配送先について

士会からの郵送物に関して職場ではなく自宅への配送に変更を希望される方がおられます。県士会では職場を登録していただいております方は郵送料の観点から原則として職場へ郵送することになっております。また、職場の登録を削除されますと生涯学習の分野において支障が出る可能性があります。

会員の皆様には不便をお掛け致しますが、職場への郵送となります事にご理解とご協力をお願い致します。

会員個人へのメール配信開始のお知らせ

5月末よりラストメールを活用し県士会の情報を会員の皆様へ配信させていただいております。配信を希望される会員の方はマイページのメールアドレスの登録をお願い致します。また、会員個人へのメールを配信の開始に伴い県士会情報の管理者ネットワークへの配信を廃止致しました。ご連絡が遅くなり申し訳ございません。ご理解とご協力をお願い致します。

滋賀県理学療法士会問い合わせ先一覧 (a)は@に置き換えてください

事務局 公文書発行	jimukyoku(a)shiga-pt.or.jp 担当：佐々木 TEL/FAX:0749-46-0001 ※お問い合わせ等は、できる限りメールにお願いいたします。
入会、異動、休会	異動届は協会ホームページ（マイページ）上から行うことになっています。 http://www.japanpt.or.jp/
財務関係	kaikei(a)shiga-pt.or.jp 担当：滋賀医大 平岩 川波 TEL/FAX 077-548-2670
発送物関係 総務部	reha(a)otsu.jrc.or.jp 担当：大津赤十字病院 リハビリテーション科 奥田 発送物等あれば、25日までにお申し出ください。 発送先の発送範囲についてもお知らせください（会員のみ、関連団体など）。各部の事業の配布物に関しても発送に関しては総務部にご相談ください。 原則案内の折込はしていません。士会事業の案内はできる限り士会ニュースへの掲載・会員あてラストメールのご利用をお願いいたします。
ホームページ原稿受付	jimukyoku(a)shiga-pt.or.jp 担当：佐々木 ホームページ http://www.shiga-pt.or.jp
士会ニュース原稿受付	広報部 shigaptnews(a)yahoo.co.jp 担当：公立甲賀病院 山添
介護報酬部	ptkaigohokennbu(a)yahoo.co.jp 担当：ナースステーションあうんケア栗東 片岡
診療報酬部	toyosato.rha(a)toyosato.or.jp 担当：豊郷病院 磯寄 ※お問い合わせ等の際には、メールの件名に「診療報酬部への問い合わせ」と明記してください。
生涯学習関係 生涯学習管理部	h-kawasaki(a)pt-si.aino.ac.jp 担当：びわこリハビリテーション専門職大学 川崎 TEL 0749-46-2311
厚生事業関係 厚生部	ptshiga_kouseibu(a)yahoo.co.jp 担当：東近江市蒲生医療センター 奥田
公益事業部	shigapt_k_mk2016(a)yahoo.co.jp 担当：甲賀市水口医療介護センター 岸本
障がい者スポーツ支援部	ptshiga.parasports(a)gmail.com 担当：医療法人かさばら医院 石井
教育部	Ptkyouikubu(a)yahoo.co.jp 担当：大津赤十字病院 中川

編集後記

今号は「第38回滋賀県理学療法学会集會」、「第1回びわ湖マラソンのボランティア」、「国スポ・障スポ2025に向けての活動」等、様々な報告を掲載しております。理学療法士の活動の場が多様化していることを改めて感じました。

今後も会員の方々の活動を紙面で報告し、皆さんで情報共有できるよう広報部一同取り組んでまいります。今後共、ご協力の程、よろしくお願い致します。

揺るがない医療人へ



びわこリハビリテーション
専門職大学



〒527-0145 滋賀県東近江市北坂町967 TEL:0749-46-2311

<本学HP>